

在宅医療体制検討特別委員会

目 次

平成 24 年度報告書

- I. は じ め に
- II. 検 討 状 況 な ど
- III. 調 査 検 討 概 要
- IV. 県 施 策 へ の 反 映
- V. お わ り に

在宅医療体制検討特別委員会

(平成 24 年度)

平成 24 年度報告書

広島県地域保健対策協議会 在宅医療体制検討特別委員会

委員長 竹内 啓祐

I. はじめに

急速な高齢化により、慢性疾患を中心とした在宅での療養や介護を必要とする高齢者が増加し、在宅医療や在宅看取りのニーズも増加することが見込まれ、また、在宅療養に関する医療技術の進歩などにより、認知症高齢者や障害のある患者、がん患者、エンド・オブ・ライフケアなど在宅医療のニーズが多様化するものと考えられる。

さらに、平成 25 年度から 29 年度を計画期間とする保健医療計画にも、5 疾病 5 事業に加えて、在宅医療の連携体制の構築について盛り込むこととされるなど、在宅医療を取巻く状況は大きく変化している。

このような状況に対応するため、広島県地域保健対策協議会に、多職種の代表者で構成する在宅医療体制検討特別委員会を設け、在宅医療にかかる関係機関などの役割や機能、地域における医療と介護の連携などについて検討を行うとともに、在宅医療推進のための人材育成事業に取り組んだ。

II. 検討状況など

(1) 第 1 回在宅医療体制検討特別委員会

- ①開催日時 平成 24 年 7 月 9 日(月)
- ②協議事項 在宅医療にかかる課題について
在宅医療提供体制について

(2) 在宅医療体制検討特別委員会 WG 会議

- ①開催日時 平成 24 年 11 月 5 日(月)
- ②協議事項 地域リーダー研修について

III. 調査検討概要

(1) 課題の抽出

- 委員会において挙げられた主な課題
- 入院機関から在宅療養（かかりつけ医）への引継ぎが不十分
 - 在宅医療に対応する医師や看護師が十分でない

い（24 時間体制が取れない）

- 在宅療養を支える医療関係者と介護関係者の連携が不十分（職種間の連携不足、事業所間の連携不足）
 - ケアマネジャーのコーディネート力向上が必要
 - 在宅医療に対する本人や家族の不安が大きい
 - 在宅での看取りに対する理解不足（医療・介護関係者も住民も）
- #### (2) 広島県保健医療計画（第 6 次）「在宅医療体制」の検討
- 挙げられた課題を踏まえ、広島県保健医療計画（第 6 次）の施策の方向および在宅医療に求められる医療機能について検討（意見提出）
- ①施策の方向
 - 在宅医療の提供体制の整備
 - ・在宅医療に積極的に取り組む人材の育成
 - ・入院医療と在宅医療、医療と介護の連携による在宅療養の推進
 - ・病状の急変時や在宅での看取りに対応する体制づくり
 - ・在宅医療に必要な連携を担う拠点の整備
 - 在宅医療に関する啓発・情報提供
 - ②在宅医療に求められる医療機能
 - 退院支援
 - ・入院医療機関と、在宅医療にかかる機関の円滑な連携により、切れ目のない継続的な医療体制を確保
 - 日常の療養支援
 - ・患者の疾患、重症度に応じた医療が多職種協働により、できる限り患者が住み慣れた地域で継続的、包括的に提供
 - 急変時の対応
 - ・在宅療養者の病状急変時に対応できるよう、在宅医療を担う病院・診療所、訪問看護事

業所および入院機能を有する病院・診療所との円滑な連携による診療体制の確保

○看取り

- ・住み慣れた自宅や介護施設など、患者が望む場所での看取りを行うことができる体制を確保

(3) 在宅医療推進医等リーダー（コミュニケーションリーダー）育成研修

広島県と協働で、地域において積極的に在宅医療に取組み、医療と介護の連携の中心的な役割を果たす医師を育成するための研修会を開催した。広島県医師会や市郡地区医師会の協力を得て、県内全域から計 157 人の医師の参加があり、在宅医療に取組む医師の増加に資する研修となった。なお、当委員会委員は参加者から特に好評を得たグループワークにおいてファシリテーターを勤めた。研修の概要は以下のとおり。

①福山会場

- ・日 時 平成 25 年 2 月 17 日(日)
- ・場 所 福山市医師会館 4 階講堂
- ・参加者 医師 32 人
地域包括支援センター職員、行政職員ほか 43 人
- ・内 容

時 間	内 容
13:00	開会
13:05～	講義 ①「在宅医療推進医など（コミュニケーションリーダー）育成研修の目的と概要」 講師 北広島町雄鹿原診療所 所長 東條環樹 ②「かかりつけ医の役割、在宅・施設診療の実態」 講師 折口内科医院 院長 高橋浩一 ③「チーム医療としての在宅医療～多職種・他事業所連携の必要性～」 講師 東広島地区医師会地域連携室 あざれあ室長 杉本由起子
14:10～	グループワーク 1 DVD 視聴・グループディスカッション—在宅における多職種ケアカンファレンスの一例— 講師 北広島町雄鹿原診療所 所長 東條環樹
15:15～	グループワーク 2 グループ討議 「多職種連携の課題と解決策」 講師 医療法人楽生会馬場病院院長 馬場 広

②広島会場

- ・日 時 平成 25 年 2 月 24 日(日)

- ・場 所 広島県庁 6 階講堂
- ・参加者 医師 125 人
地域包括支援センター職員、行政職員ほか 124 人
- ・内 容

時 間	内 容
13:00	開会
13:05～	講演 「超高齢社会における医療・介護の政策課題」 講師 政策研究大学院大学 教授 島崎謙治
14:20～	講義 「在宅医療推進医など（コミュニケーションリーダー）育成研修の目的と概要」 講師 北広島町雄鹿原診療所 所長 東條環樹 「かかりつけ医の役割、在宅・施設診療の実態」 講師 折口内科医院 院長 高橋浩一 「チーム医療としての在宅医療～多職種・他事業所連携の必要性～」 講師 東広島地区医師会地域連携室 あざれあ室長 杉本由起子
15:25～	グループワーク 1 DVD 視聴 —在宅における多職種ケアカンファレンスの一例— 講師 北広島町雄鹿原診療所 所長 東條環樹
15:45～	グループワーク 2 グループ討議 「多職種連携の課題と解決策」 講師 社団法人因島医師会 副会長 岡崎純二

IV. 県施策への反映

今年度の本委員会の検討や取組の結果を踏まえ、広島県においては、平成 25 年度県政運営の基本方針に「プライマリ・ケア医を中心とする広島版地域包括ケアシステムの構築」を掲げ、125 の日常生活圏域において地域包括ケアが実現するよう、新たに、在宅医療推進医などの育成事業や在宅医療拠点整備にかかる予算を盛り込み、在宅医療の更なる推進を図ることとされている。

V. おわりに

今年度の取組を通じて、地域における在宅医療の推進には、医療と介護の連携の中心的な役割を担う医師の存在が重要であることが再確認された。

このような中、平成 25 年度には広島県医師会において、在宅医療にかかる検討体制を整備されることとなったところであり、市郡地区医師会を中心とした在宅医療推進の取組みの広がりが期待される。

広島県地域保健対策協議会 在宅医療体制検討特別委員会

委員長	竹内 啓祐	広島大学医学部
委員	荒木 和美	NPO 法人広島県介護支援専門員協会
	有村 健二	広島県薬剤師会
	石口 房子	広島県訪問看護ステーション協議会
	井上 育忠	福山市医師会
	岡崎 純二	因島医師会
	遠地 大輔	医療法人楽生会 馬場病院
	桑原 正雄	広島県医師会
	小島 隆	広島県歯科医師会
	小山 峰志	広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会
	坂上 隆士	広島県健康福祉局医療政策課
	白川 敏夫	広島県病院協会
	高橋 浩一	折口内科医院
	棚多 里美	広島県健康福祉局
	東條 環樹	山県郡医師会
	土手 慶五	広島県医師会
	豊田 秀三	広島県医師会
	中村 英典	三次地区医師会
	畑野 栄治	広島県老人保健施設協議会
	林 拓男	広島県リハビリテーション支援センター
	檜谷 義美	広島県医師会
	廣山 初江	広島県介護福祉士会
	藤原 雅親	東広島地区医師会
	古川 正愛	財団法人 広島県地域保健医療推進機構
	豊後 晴一	広島県健康福祉局介護保険課
	三森 倫	広島市佐伯区厚生部
	本永 史郎	広島県老人福祉施設連盟
	森谷 知恵	安佐在宅診療クリニック
柳迫 三寛	広島県医療ソーシャルワーカー協会	
山本 恭子	広島県看護協会	
芳谷 伸二	広島県地域包括ケア推進センター	
若林 拓	広島県健康福祉局高齢者支援課	